

日東タグ株式会社

新造船 令鳳丸が就航 常に初心で臨む=「ゼロの心」

1月27日、日東タグ株式会社の、新造船タグボートの「令鳳丸」が就航し、大阪港に配置された。大阪港は港湾法上の国際戦略港湾に指定され、開港以来、近畿圏の産業・経済を支える物流拠点として機能し、年間の入港隻数は国内船と外航船を合わせて約二万隻を誇る。

新しく大阪港に配置された「令鳳丸」は、船舶の入出港のサポートのほか、港内における火災や油流出などの事故・災害時の活躍も期待されている。

日東タグ株式会社は、川崎汽船株式会社の連結子会社で、日東物流株式会社の出資会社。1994年10月に、日東物流株式会社の曳船・海運部門を分社してスタートし、瀬戸内海や神戸・大阪で入出港する船舶が安全に航行・離接岸するためのタグ作業を行っている。

特に海上防災では、1960年代から発展してきた水島コンビナート地区をはじめ、阪神エリアにおいて、海の安全を守り、海運を支える大切な役割を担ってきた。そして、安全を提供し信頼を保ち続けるため、慣れや慢心などおごることなく常に初心で臨む=「ゼロの心」で海と関わることを使命として、海運産業の発展に貢献している。

「令鳳丸」では、本船を巧みに操船するベテランの船長をはじめ、船体整備・エンジンのメンテナンスなど、乗組員全員のチームワークで、安全運航と港でのタグ作業に努めている。「令鳳丸」のこれからの活躍が期待されている。

「海員だより」